

株式会社アイアンドディ 様

ID カード発行統合アプリケーション「ID Maker」の品質を支えるテスト自動化への取り組み

TestComplete 導入の背景と成果

株式会社アイアンドディ社では、カード発行統合アプリケーション「ID Maker」の品質向上と開発効率改善を目的に、テスト自動化ツール「TestComplete」を導入しました。本記事では、導入の背景と採用理由、得られた成果をご紹介します。

TestComplete を導入した理由 - ID Maker × テスト自動化

ID Maker は、社員証・学生証・会員証などの発行を担う業務用ソフトウェアであり、安定した品質が不可欠です。属人化しがちなテスト工程を見直し、品質を継続的に担保するため、GUI テストに対応した TestComplete を採用しました。

ID Maker とは - 自社開発の ID カード発行統合アプリケーション

ID Maker は、株式会社アイアンドディ社が 100% 自社開発する ID カード発行統合アプリケーションです。

C/C++、C# の言語で開発されており、カードプリンタと連携し、デザイン作成、印刷、データ管理、IC・磁気エンコードまでを一元的に行えます。ID カードである社員証・学生証・会員証などに広く対応。

多様な用途に対応するため、バージョンアップ時の動作確認範囲が広い点が特長です。



開発における課題 - 手動テストの限界

GUI 操作が中心のため、従来は手動テストが主流でしたが、**回帰テストの工数増大、テストの属人化、確認漏れのリスク**といった課題が顕在化し、テスト自動化の必要性が高まりました。

TestComplete の採用理由

TestComplete を採用した理由は以下の 3 点です。

- GUI テストに強く、実操作に近いテストが可能
- 記録機能とスクリプトを併用でき、柔軟な運用が可能
- 直感的な UI で、英語表記でも導入しやすい

得られたメリット

TestComplete 導入により、回帰テストの自動化を実現し、

- **テスト工数の削減**
- **品質の安定化**
- **不具合の早期発見**

を達成しました。開発スピードの向上と、品質の向上の両立につながっています。

テスト工数が約 2 割が削減されていますが、削減効果以上に 回帰テスト時のテストターの負担軽減が大きく、品質確保と担当者の作業効率に大きく寄与しています。

利用されている機能

- Region Checkpoint (画像の比較検証機能)
- Property Checkpoint (オブジェクトのプロパティ値の比較検証機能)
- Data-Driven-Loop (1 つのテストを複数の入力パターンで自動実行可能な機能)
- Name Mapping (テスト対象のオブジェクト自動認識機能)
- If Object オペレーション
- Run Code Snippet

取材協力:

株式会社アイアンドディ 技術部 品質管理課

Ai & Di

Advanced identification & Digital imaging

会社名: 株式会社アイアンドディ

設立年月日: 1996 年 2 月 19 日

ID カード発行システムおよび周辺機器を製造・販売する国内で数少ない ID カード発行システム専門メーカー。

ID Maker^{IIロメーカー} 6⁺

ID Maker は、大企業・大学を中心に国内 4,500 システム以上導入実績のある ID カード発行管理システム。

ID Maker 対応のカードプリンタと接続することにより、ID カード(社員証・学生証など)の印刷、IC エンコード、磁気エンコードなどを行い DB にてデータを管理できるアプリケーションソフト。ID Maker 最新版は「ID Maker 6⁺」。